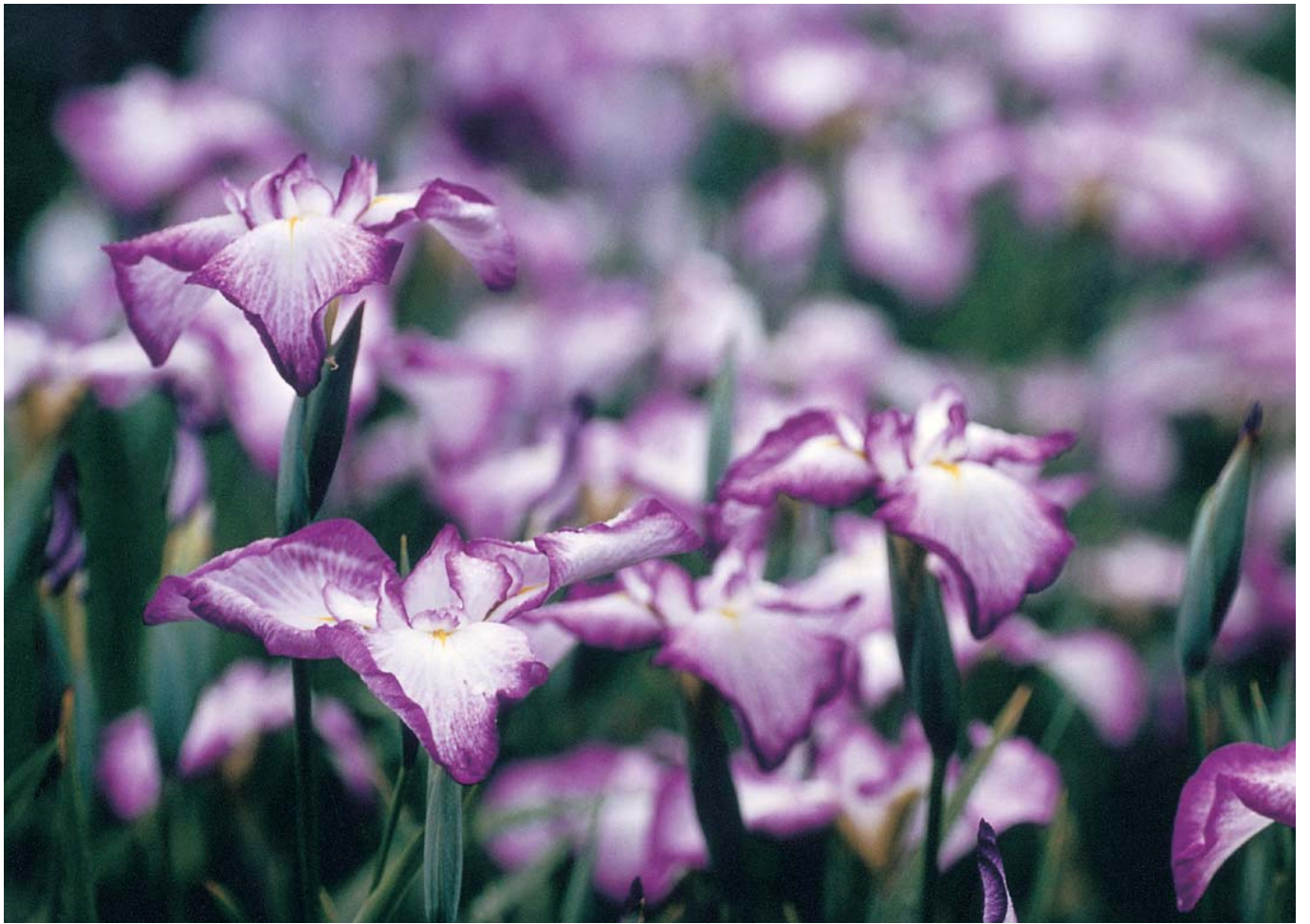


第23号

酪農とちぎ



梅雨入り間近か

田植も終え、新緑が一層増し、清々しい季節になりました。各放牧場とも一斉に入牧が行われ、いよいよ初夏の到来となります。

皆さんには梅雨入りを目前に、牧草収穫作業等多忙な日々と察しますが、農作業事故・乳質の保安全管理には充分ご注意ください。

六月、組合におきましては、本年も地域別説明会、総代会を予定しておりますので、多数のご出席をお待ち申し上げます。

また、新規国庫補助事業「需要期生乳生産推進事業」が始まります。暑熱対策・快適な生産環境に心がけ、組合の需要期生乳生産奨励制度と併せて有効な活用を願うものです。



十五年度業務報告及び 十六年度事業方針を策定

十五年度業務報告

〔冷夏による加工増・
市乳販売量の低迷〕

第三年次の組合業務が終了し、第四年次がスタートしました。詳細な報告は、今年も予定してあります。地域別説明会において報告申し上げますが、概要についてお知らせいたします。

生乳生産量

全国の生乳生産量は八百四万一千トン（前年比一〇〇・六％）となりました。地域別に見ますと、前年実績を上回ったのは北海道一〇一・八％・九州一〇三・八％・中国地方一〇〇・六％の三地域です。関東の生産量は百三十六万六千トン、前年比九八・四％でした。

生乳販売事業

組合の総生産乳量は二十一万七千三百トンと前年比九九・二％でした。飼養頭数の減少、搾乳素牛の高騰により更新が進まなかった等が起因しております。加工向けは冷夏の影響等により、関東平均では六・四九％と前年より〇・九ポイント増加しました。乳質は各位のご努力により、脂肪・無脂乳固形分・体細胞数とも前年より大きく向上しました。特に細菌数は、十万以下が九九・五％と改善されております。また、全集乳車にオートサンプラーの設置、ハンディコンピュータの整備により業務の統一と合理化を図り、奨励措置として需要期出荷奨励・優良生乳出荷奨励金及

び緊急生乳増産対策等で総額三億五千万円の支払を行いました。

市乳販売事業

不況の長期化・冷夏・低価格販売合戦等の影響を受け、販売実績二千二十二万五千本と前年比八二％（計画比一〇二・九％）の厳しい結果となりました。販売先の新規拡販と合わせて新発売した「那須だいき牛乳」は、各方面から好評を得ており、今後に期待しているところです。

購買事業

飼料価格は、配合飼料において原料事情・為替・船運賃の変動により、年間を通し値上げ基調となりましたが、粗飼料は船運賃の高騰があつたものの、主産地の豊作等により通年では値下げにて推移しました。このような状況の中、巡回による指導購買を推進した結果、濃厚飼料十萬三千五百九十トン・前年比一〇〇・二％（計画比九七・三％）、粗飼料五萬四千四百五十五トン・前年比一〇五％（計画比一〇三・九％）の実績を収め

ることが出来ました。また、配合・粗飼料利用奨励金として一億五千万円を支払うことが出来ました。

指導事業

各戸の巡回指導により情報の提供・管理技術の普及・安定経営の確立等に努めました。特に、「家畜排せつ物法」の対応につきましては、未整備農家を巡回しながら施設の整備を推進しました。組織活動におきましては、支所事業運営協議会・青年部・女性会活動の支援を行いながら乳牛導入・預託事業等を進めてまいりました。

牧場事業

健康な後継牛育成をめざし、冬季の舍外放牧を行なった結果、良好な成績を収めることが出来ましたので、今後も継続する予定です。預託頭数は期中の退場が二百四頭あり、期末在場頭数は三百二十一頭、計画比一〇二％となりました。

財務

今期加入者は、親子加入を含め十七名、脱退者が二十五名ありま



した。資本造成につきましては、各位のご理解とご協力により、二億二千万の増資が図られました。（ご協力大変ありがとうございました。）財務状況は、自己資本におきまして増資、準備・積立金等により前年より二億四千万円増加いたしました。

十六年度事業方針

「家畜排せつ物法」の対応と那須高原CS新設

生乳販売事業は、生乳販売目標を二十一万二千百トン（前年比一〇〇・八％）と設定しました。今後、飼養頭数の減少・初妊牛価格の高騰等の誘因が懸念されますが、安全・安心な高品質現乳の販売に努めます。また、新規補助事業「需要期生乳生産推進事業」と相俟^あって、需要期奨励・優良生乳奨励策及び乳質共励会を踏襲^{ついで}します。市乳販売は、事業目標を二千万本（前年比一〇四％）と策定しました。市場は、依然として低価格競争が続いておりますが、明治

乳業株・東京明販株との協調により値締めを継続し、主力商品「那須牛乳」・「酪農牛乳」・「那須だいすき牛乳」を重点に、効率的販売に努めます。

購買事業は、安全・良質・安価な飼料の安定供給をモットーに、指定配合及びTMRの普及推進を図ります。また、各戸巡回による指導購買を基本に、組合購買の利用を一層推進し、前年に続き配合・粗飼料等の利用奨励措置を実施いたします。

指導事業は、本年十一月より完全実施されます「家畜排せつ物法」に対応するため、未整備者の早期整備に全力を注いで参ります。また、飼養環境等の改善による個体能力の向上と生産整備の強化を図ると共に、自家育成・預託による後継牛確保を進めて参ります。

酪農ヘルパー事業は、定休型の拡充と傷病時利用互助会の充実に図り利用者対応に努めて参ります。診療事業は、指導診療を中心に体細胞数の向上と乳房炎防除に努

めるとともに、優良乳用牛の効率的な生産を目指し、受精卵移植を進めます。また、関係機関との連携により法定伝染病の防疫対策を図ります。

ふれあい牧場は、冬季の舎外放牧を行い、健全な後継牛作りに努め、預託者の要望により受精卵移植を実施いたします。牧場整備につきましましては、牧場運営検討会で策定しました基本計画に基づき、具体的な計画に取り組みます。さらに、今年度より「県有土上平放牧場」を本組合が管理することとなりましたので、ふれあい牧場との放牧体系を考慮しながら有効に活用します。

那須高原CS新設は、同建設委



那須高原CSの井戸掘削作業

員会及び理事会において慎重な協議の下、国庫補助事業の認定を受けまして、黒磯市内の自敷地に八月着工に向け準備を進めている所です。また、同敷地内に那須高原支所を合わせて建設予定です。

資本造成につきましては、今年度も目標額一億二千万円に向け、引き続きご協力をお願い申し上げます。

管理業務につきましては、人事考課制度による人事管理を行い、事務合理化と管理費用の圧縮に努めて参ります。



「家畜排せつ物法」が11月より完全実施されますので、早急な対応が求められています。



「とちぎファームフェスタ2005」

基本計画決定！

第三回栃木県実行委員会開催

第十二回全日本ホルスタイン共進会第三回栃木県実行委員会が、平成十六年五月二十日(木)、県公館で開催され、とちぎファームフェスタ2005(第十二回全日本ホルスタイン共進会栃木大会・第四回全日本ジャージー共進会栃木大会)開催の骨格となる基本計画が決定されました。

「とちぎファームフェスタ2005」は、「ミルクの国 宣言!」をテーマとし、来年十一月三日から六日まで壬生町羽生田内県有地で開催されます。その中心となる共進会は、ホルスタイン種三〇〇頭(四五都道府県)、ジャージー種六〇頭(十四都道府県)の合計三六〇頭で競われます。本県からはホルスタイン種三十四頭、ジャージー種三頭の出品を予定しており、アドバイザーによる候補牛の

ベントを数多く計画しております。主なイベントゾーンは次のとおりです。

情報・展示ゾーン

農業等最新技術展示、栃木観光情報、牛乳・乳製品紹介等

食・物産ゾーン

おいしいレストラン(牛乳・乳製品を使ったオリジナル料理を準備し、「地産地消」を味わってもらうためのレストラン)等

イベントゾーン等

折り牛を使った「二〇〇万人モニメントツリー」の制作・展示折り牛インストラクターの養成、酪農をテーマとした県民参加ミュージカル、バター作り体験(一千人規模でギネスに挑戦)、乳搾り体験等

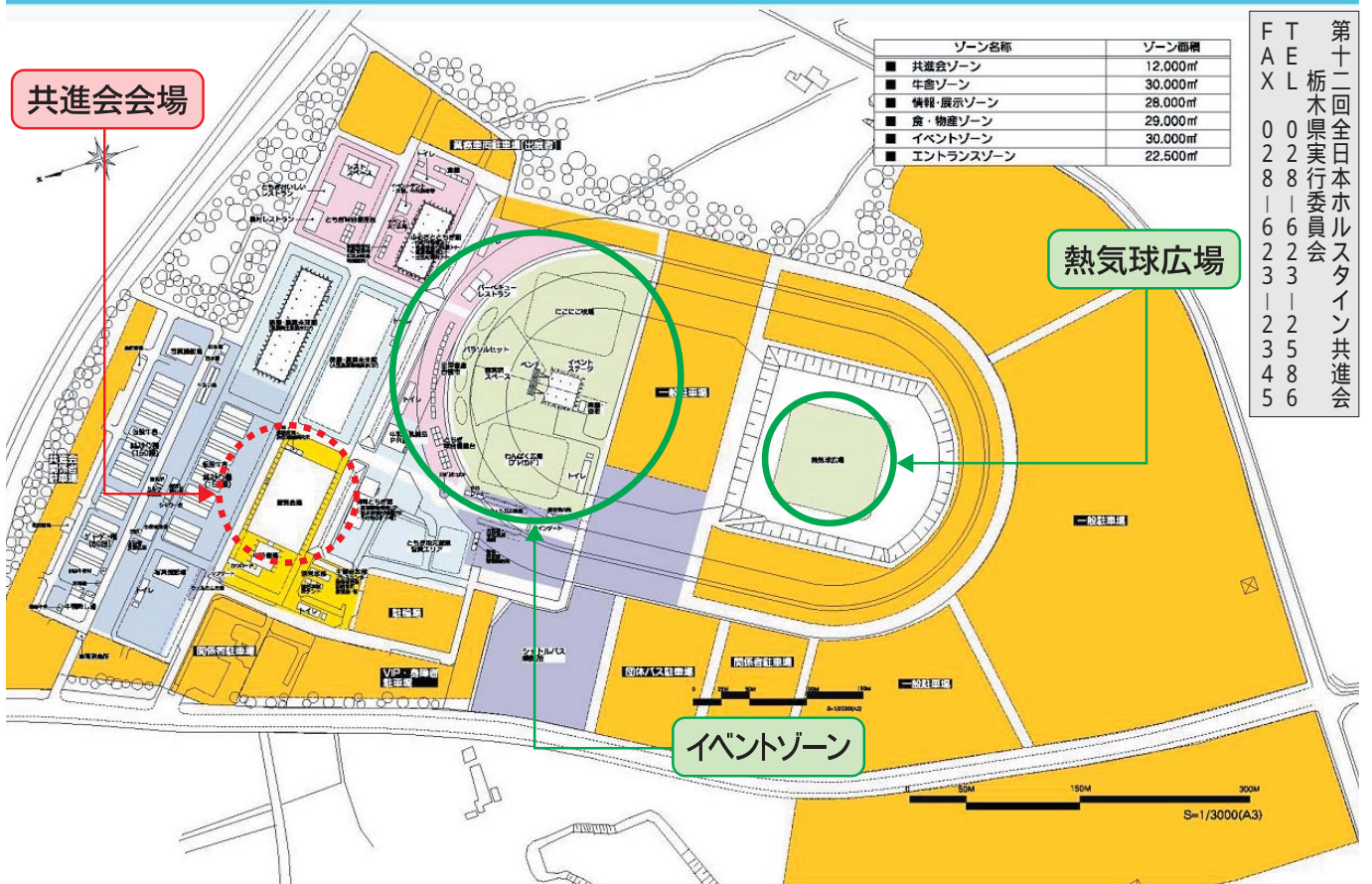
また、本年十一月三日(水)、大会開催予定地において「とちぎファームフェスタ2005プレ大会」(第十七回栃木県ホルスタイン共進会及び各種イベントの併催)を開催します。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

最後に、大会成功に向け計画的に諸準備を進めてまいりますので、今後とも皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。



巡回や技術講習会等を開催し、出品牛対策の強化を図ってまいります。基本計画では、共進会に併せ栃木県民みんなが「参加する」イ

全体ゾーニング・レイアウト図



東西南北

那須高原支所

地域酪農組合・青年部・女性会
通常総会を開催

各支部において通常総会が行なわれ、全議案が原案通り可決承認されました。また、総会終了後は「家畜排せつ物法」についても話し合わせ、情報交換などを行いました。

地域酪農組合

那須地域 五月十四日

那須高原支部 四月三十日

中部支部 四月二十三日

高久支部 四月十九日

黒磯地域 四月二十六日

穴沢支部 四月二十日

高林支部 四月二十二日

青木支部 四月十五日

くろいそ支部 四月十五日

塩原・西那須地域 四月二十三日

塩原支部 四月二十三日

西那須野支部 四月二十三日

大田原地域 四月二十一日

大田原支部 三月二十四日

黒羽支部 四月一日

湯津上支部 四月十五日

青年部

那須支部 四月二十七日

黒磯支部 四月二十七日

塩原・西那須支部 四月二十六日

大田原支部 四月十六日

女性会

那須支部 四月二十三日

黒磯支部 四月二十一日

塩原・西那須支部 四月二十二日

大田原支部 四月十五日

宇都宮支所

那須南地域酪農組合通常総会開催

四月十三日(火)那須南地方農業共

済組合にて、菊池副組合長を招き

第三回通常総会を開催しました。

始めに当地域酪農組合長の小森

幸雄氏が、「年々生産段階での管理

義務が求められ、今年十一月一日

からは「家畜排せつ物法」が施行

されますが、酪農維持発展には避

けて通れない時代となった」と挨拶

しました。

続いて、菊池副組合長より挨拶

とともに、組合の実績報告があり

ました。特に、脱脂粉乳等酪農情

勢・平成十六年度の生乳計画生産

の見通し・第十二回全共開催の進

捗状況・米国BSE発生に関連す

る事項・合併効果・組合の中期構
想立案中であること等を話されま
した。この後議長が選出され議事
に入り、全議案が原案通り可決承
認となりました。

青年部・女性会

通常総会を開催

各支部において、第三回通常総
会が行なわれ、全議案が原案通り
可決承認されました。

女性会

那須南支部 四月十五日(木)

宇河今市支部 五月十七日(月)

塩谷支部 五月二十八日(金)

青年部

宇河今市支部 四月二十六日

(月)

塩谷支部 四月二十八日(水)

那須南支部 五月十二日(水)

今年度は、青年部・女性会各支部

とも役員改選が行なわれ、支部長

以下全員が新たに選任されました。

栃木県南支所

益子町の花園

益子町の酪農家では牛舎や自宅
の周りに環境美化で配布したパン
ジーを中心に多種の花が咲き揃っ
ています。

益子陶器市の近くで酪農を営む

岩淵英子さんが、丹精こめた花を
酪農仲間の皆さんに分けています。
本人は花がいっぱいきれいに咲
くのが嬉しくて楽しんでるだけ
と言っていますが、ペテランの花
博士であらゆる種類、栽培法を
語ってくれます。

五十数種の花があり、秋には種
を取り選別して、次の年のために
保存しています。土は山の神様か
ら赤土を頂いて、牛にしつかり踏
ませた木の葉と混ぜて二年間熟成
させています。

最初は花を好きな人が喜んでく
れるので分けていましたが、今で
は開花の季節になると、酪農家仲
間が集まり、咲き揃った花を見な
がら持ち寄ったお菓子でお茶会が
行われています。自然に始まった
恒例の花見会が、十数年間も続い
ています。



酪農家に分けた花は秋まで次々
と咲いて、
牛舎美化に
役立ってい
ます。岩淵
さん、是非
いつまでも
続けて酪農
家を花園に
して下さい。



部課だより

生乳販売部

生乳生産減少傾向続く！

組合の三月生乳生産乳量は一八、四〇二ト、前年比九十九%となりました。

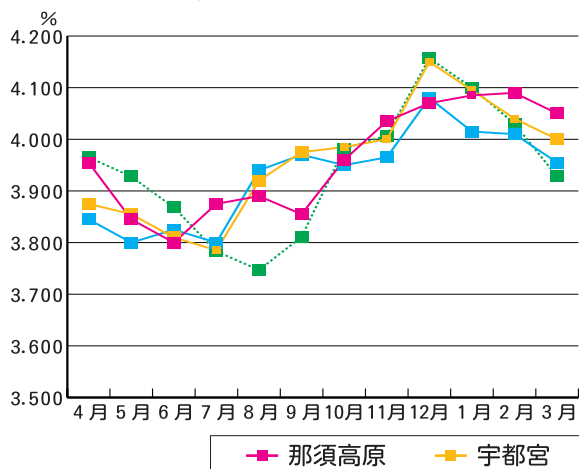
十月以降の生産が回復された要因として分娩頭数、気候的、個体能力向上によるものと考えます。

前年度上半期が九十七・七%であったことからみると下期において生産がかなり回復した結果となりました。

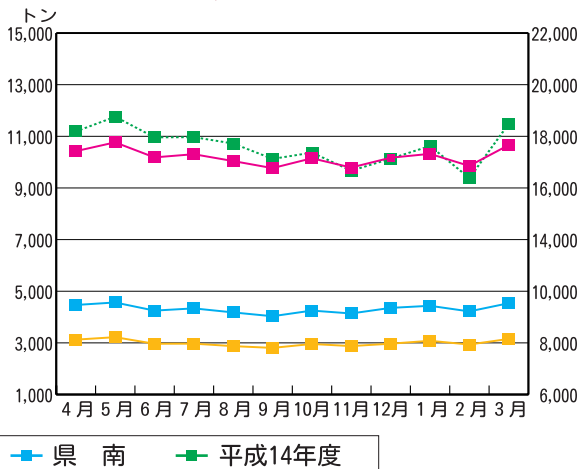
また、都府県においては一・四%減と減少傾向が続いております。一方、用途別販売実績をみると関東生乳販連においては、飲用牛乳向け販売量は前年比九八・三%と依然として回復傾向が見られず、特定乳製品向けについては飲用消費量の減少から前年比一〇二・七%と増加し、需給は緩和傾向が続いています。

乳質においては前月に引き続き無脂固形分率・脂肪率とも前年を上回る成績となっており、細胞数は前年を約一・七万向上しています。

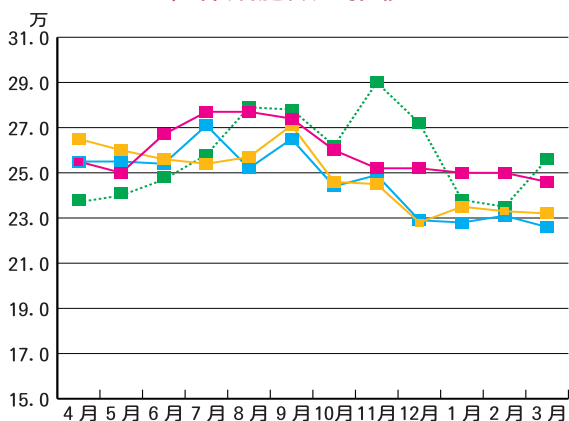
◆ 脂肪率の推移



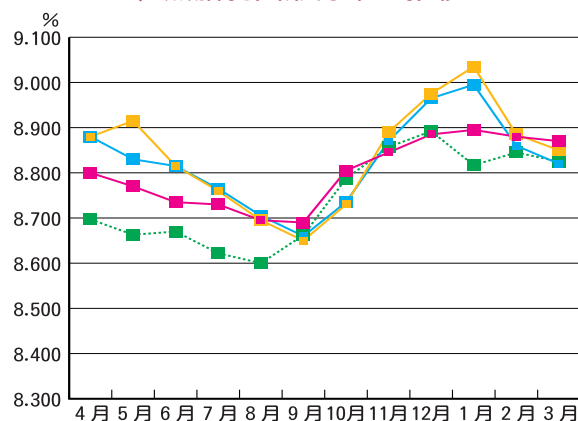
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



上回る成績となっており、細胞数は前年を約一・七万向上しています。

十五年度の乳量及び乳質成績は左記のとおりです。

酪農部

夏期放牧開始

山々の緑が鮮やかな土上平放牧場で、五月十三日入牧が行なわれました。やや肌寒く時折小雨の混じる天候でしたが、百四十七頭全て酪農とちぎが入牧されました。今年度より土上平放牧場の管理が、栃木県酪連から当組合に業務移管された最初の入牧でしたが、皆さんのご協力により無事終了することができました。

お預かりした育成牛が立派に成長し、秋には無事に皆さんの元へ返戻できるよう、管理に努めてまいります。

なお、県内各放牧場の入牧状況をお知らせ致します。

各放牧場の入牧状況

牧場名	入牧日	入牧頭数
大野放牧場	4月14日	58(43)
豊月平放牧場	4月26日	74(52)
那須模範牧場	5月11日	425(324)
土上平放牧場	5月13日	147(147)
霧降高原牧場	5月18日	59(59)
県内放牧場入牧頭数		763(625)

()は酪農とちぎ



チーズの王国、フランス、
イタリアを訪ねて

那須町大同 今 ゆかり



私は、二月二
十二日から三月
十一日の二十日
間、フランス・

イタリアのチーズ工場の視察研修
に行つて来ました。

将来は、家で搾つた牛乳からチ
ーズを作りたいと思つていた私は、
北海道の、共働学舎新得農場で二
年間の研修を受けてきました。そ
の研修先の宮嶋望さんが、フラン
スでチーズのジャッジ・イタリア
でのブラウンスイス会議に招待さ
れて行くことを知り、以前から、
フランス・イタリアはチーズの本
場、一度は行って見たいと思つて
いたので、私も同行させていただ
きました。私他に、共働学舎で
働いている女性二名も一緒に参加
しました。

二月二十二日、私は早めに成田
空港に到着しましたが、みんなが
なかなか来ません。千歳空港が大
雪で、飛行機が遅れているとのこ

とでした。その後仲間二人が無事
到着しました。残るは宮嶋さん一
人です。飛行機が飛ぶ前に、間に
合わないから、三人で先に行つて
くれ。」と連絡があり、不安でいっ
ぱいそのまま、先にフランスに到着
しました。

しかし、フランスに着いたらハ
ラハラからワクワクに変わつてい
きました。翌日には宮嶋さんも到
着し、研修も順調にスタートです。
乳製品学校、COQUARD社チ
ーズの道具・乳酸菌を扱っている
会社、数件のフェルミエ(農家製)
工房をまわつてきました。そして、
パリで宮嶋さんはチーズのコンク
ールに出席し、私達は農業祭を見
て回りました。その会場では、牛
・ヤギ・ヒツジ・鳥・ブタ等の家
畜がたくさんいて、その横では、
チーズ・ヨーグルト・ハム・サラ
ミを売っていたり、肉牛の横で肉
を焼いていたりと、驚くことばかり
でした。

フランスでの十日間が終わりに、
イタリアに入りました。イタリア
は暑いのかと思つていたら、フラ
ンスと同じくらい寒かったです。
南方の海の近くも、想像と違いと
ても寒く感じましたが、イタリア

の人達は、とても明るくて親切で
した。

パルミジャーノ・レッジャーノ、
グラナ・パダーノ、モンテ・ペロ
ネーゼ、タレットジョ、そして水牛
のモツアレラ等のフェルミエ工房
を見学した時に、どこの工房でも
丁寧な説明をしてくれました。

フランス・イタリアのどこの工
房でも共通して話していたのは、
「何年もの長い歴史があつて、道
具とかは機械化されてきたけれど、
基本的な作り方は変わっていない
」ということでした。どこの工
房でも、すべてタイミングや、あ
る程度の時間の目安で、ミルクの
時のpHは計るけど、ホエーのpHは
計らないよ。あとは、タイミング
だね」と言っていました。何十年
もチーズを作っている人でさえ、
「同じチーズは作れない」とも
言っていましたし、やはりチーズ
作りは奥が深いと思いました。し
かし、逆にそれがおもしろいのか
と思ひ、ますますやる気が出てき
ました。

私の家でも、近い将来チーズ工
房を建設する予定です。その時に
は、この研修で得たことを生かし
ながら、がんばりたいと思います。

5月ホクレン初妊牛市場成績

(単位:頭,千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
釧路	5月11日	211	484	6	16	28	66	78	17
十勝	5月11日	333	540	1	10	23	51	72	176
北見	5月12日	234	528		5	22	60	52	95
豊富	5月20日	236	493	3	13	27	71	97	25
十勝	5月24日	284	539	1	7	12	55	85	124
根室	5月27日	363	489	3	11	58	128	127	36
合計		1,661	515	14	62	170	431	511	473
前月		1,980	523	27	53	128	401	618	753
前年同月		1,425	462	571	482	307	40	25	

家畜市場成績

平成16年5月

(単位:円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	125	-	75,600	7,460	55,525
	F1雄	71	-	178,500	79,800	135,435
	F1雌	75	-	99,750	27,300	69,236
館林 十七日	ホルス雄	1	68	76,000	76,000	76,000
	F1雄	6	70	163,000	115,000	146,000
	F1雌	11	74	121,000	94,000	107,000



理事会だより

四月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
 - (二) 酪農まつり報告について
 - (三) 平成十六年度生乳計画生産自主申告について
 - (四) 建設委員会報告について
- 協議事項
- (一) 平成十六年度生産者支払乳価及び四月分生産者支払乳価について
 - (二) 三月度及び下半年事業実績について
 - (三) 平成十五年度乳質共励会表彰について
 - (四) 資金貸付について

- (五) 那須高原CS建設について
- (六) JA総合診断受診について

お知らせ

祝ご結婚

益子町の岩淵至正さんの後継者隆之さんが、四月二十四日新婦泰子さんを迎えられご結婚されました。末永くお幸せに。

【地域説明会】

地域別説明会を、次の通り開催致しますのでご出席をお待ち申し上げます。

- 六月九日 栃木県南支所管内
- 六月十日 芳賀地方農業共済組合 宇都宮支所管内
- 六月十一日 塩谷地方農業共済組合 那須・黒磯地域 厚崎公民館

六月十五日 大田原・塩原・西那須野 西那須野事業所
開催時刻は四会場とも、午後一時三十分より開催致します。

【通常総代会】の開催について

第三回通常総代会を次の通り開催致しますのでお知らせします。

期日 平成十六年六月三十日 午前十一時より
場所 高根沢町民ホール

受精卵移植師免許取得講習会開催

開催期間 六月二十八日、七月二十三日
開催場所 栃木県酪農試験場
申請受付 六月十日、十七日
申請書を家畜保健衛生所へ提出
お問い合わせは、畜産振興課又は家畜保健衛生所まで。

整備士から酪農業への転職

壬生町の井上了一さん(五十三才)が、酪農に対する情熱と努力で、新規に就農することの難しさに打ち勝ち、この度めでたく牧場経営が始まりました。

井上さんは約一年前、当時自動車板金工場を経営していましたが、「酪農業を営むため酪農に関する情報と組合の状況を伺いたい。」と県南支所へ訪れました。事情を尋ねますと、出身が北海道別海町で、学生時代には搾乳を手伝ってから

学校に通ったこと、板金工場の前には酪農家があり、近所付き合いの中で時折手伝いもしていたことなどが解りました。そして、数年前にその酪農家が廃業したことをきっかけに、井上さんは前々からの酪農経営への夢を是非実現したくなり、息子さん(美昭さん二十才)と相談し、親子で酪農に新規就農する決意をしました。

早期に搾乳が出来るよう、北海道より経産牛を導入し、二月十六日から二十八頭の搾乳が始まりました。井上さんは事前搾乳研修を

二ヶ月間行っていました。初めての搾乳日には機械・飼料メーカー及び組合関係者が手伝い、新規就農を祝い励ましました。搾乳牛を北海道から一度に導入しました。輸送ストレスの影響から乳量が極端に少なく心配しましたが、その後ストレスも改善され、順調に出荷が始まり分娩も始まっています。

今後は自家育成を基本に井上牧場の銘柄乳牛を揃えて、皆さんに負けない牧場作りに井上親子は頑張っていく予定です。是非、この親子に熱いエールをお送りください。

パソコン一年生 インターネット事件

ここ最近PC関連ニュースは、

顧客情報漏洩、ウィルスの蔓延、迷惑メール、出会い系サイト関連の事件など話題に事欠きません。そのような中、Winnnyというプログラムを作成した開発者が逮捕されました。著作権法違反ほう助の疑いです。このプログラムはインターネットを利用し、ファイルを共有化するもので、音楽などの著作権が問題にされています。この逮捕は各業界に波紋を広げており、逮捕を妥当とする者、悪用されたら逮捕されるのではソフト開発できない、開発者を逮捕するのは間違っているとする者など、様々な見解が出されています。

一方で、Winnnyを利用してゲームなどを送信可能な状態にして捕された者、Winnnyを利用しているのが、五十万払えなどといった架空請求等の関連犯罪も起こっているようです。皆さんはどう考えますか。

